

御前崎市水道事業経営戦略(2019~2028)を策定しました

現在、市の水道事業を取り巻く環境は、厳しさを増しています。その原因として、人口減少社会の到来や節水意識の向上および節水型家庭用機器の普及などにより料金収入が減少していく傾向にあることや、耐震化の更新需要が増大しているにも関わらず、施設や管路の老朽化が進んでいることが挙げられます。

市は、この現状を改善するために具体的な投資・財政計画である「御前崎市水道事業経営戦略」を策定しました。中長期的な視点から水道経営と施設整備計画の基本方針を定めるとともに、経営の健全化と経営基盤の強化を図り、将来にわたって安全でおいしい水を安定して供給することが目的です。

※市ホームページから「御前崎市水道事業経営戦略」の全文および概要版をご覧ください。

経営状況

本市の水道料金は、平成16年の合併時に料金設定の低い旧浜岡町の水道料金を採用したことで、市民の皆さんの負担を軽減してきました。また、給水原価が供給単価を上回る料金となっても料金を改定していません。そのため、毎年2億円程度の赤字が出ており、それを一般会計から補てんしている状況です。

■給水原価（製造コスト） 170.54円/㎥（平成30年度決算値）

■供給単価（販売価格） 129.31円/㎥（平成30年度決算値）

1 ㎥の水を供給するのに生じる損失 41.23円

※給水原価：みなさんに水道水をお届けするのに必要な1㎥あたりの費用

供給単価：みなさんの水道料金1㎥あたりの平均単価

御前崎市と周辺市の水道料金

家庭用（13mm）で、1カ月20㎥使用した場合の水道料金

御前崎市	2,420 円/月	掛川市	3,299 円/月
菊川市	3,645 円/月	牧之原市	3,685 円/月

※令和2年1月末時点

今後の課題

本市では、1990年以降に下水道整備と併せて整備した施設・管路が老朽化しており、更新の時期を迎えつつあります。老朽化した大量の水道管を更新するためには、多額の費用を要します。

今後、人口減少などによって料金収入が減少していくため、料金徴収業務の民間委託などにより経費削減に取り組んでいますが、更新費用を確保することが困難になると予測しています。

また、水道事業は「水道料金等の経営に伴う収入で経費を賄うこと」とされており、一般会計からの繰入金に依存した現状の経営は適正な経営とはいえません。このまま経営を続けていくと、一般会計および水道事業会計を圧迫し、安心安全な水を持続して供給することが困難になってくるため、早急に料金の見直しを検討する必要があります。

照 会 上下水道課 ☎0537-851127